

松山城におけるアブラコウモリの生態

理数科 2 年 仙波 日加里
指導教諭 若山 勇太

Abstract

A bat is the only animal which can fly in a mammal, and the habits are very interesting. In this summer, I counted bats in Matsuyama Castle every week, using bat detector, but I could not meet them. It is necessary to confirm the sensitivity of the bat detector.

1 目的

コウモリは哺乳動物の中で唯一飛行できる生物で、その生態や適応放散による進化の過程は大変興味深い。私は夕暮れ時によく目撃するアブラコウモリ *Pipistrellus abramus* に興味を持った。愛媛県では本種に関する資料が少ないことから、筆者らが本種の生態に関する基礎データを蓄積することを目的として本研究を行った。なお、調査地は松山城の城山(愛媛県松山市)とした。

2 方法

2018 年 4, 5 月に予備調査を行い、同 6 月から本調査を始めた。一週間に一度、松山城の城山において、ラインセンサス (St. 1: 東雲口→St. 2: 長者ヶ平→St. 3: 本丸広場) で在不在調査を行った。なお、個体数のカウントは目視とバットディテクターを用いて行った。2018 年 4 月・5 月を予備調査期間とし、本調査期間は 2018 年 6 月～2019 年 5 月の 1 年間とする。

また、アブラコウモリの天敵であるカラス類の調査も同時に行った。この調査はハシブトガラス・ハシボソガラスの個体数(目視や双眼鏡による観察、鳴き声の確認による概数)を記録し活動時間を特定し、捕食行動がないかどうか確認するものとした。

3 結果

- (1) 調査 1 : コウモリが観察できず、バットディテクターを用いてもコウモリらしき超音波の反応がみられなかった。また、ラインセンサスのみで調査を行ったことにより各地点での頭数、羽数の推移が見られない結果となった。
- (2) 調査 2 : 7 月の 1 週目は豪雨の影響で調査ができなかった。それ以外は有意差がなかった。また、コウモリが観察できず、捕食行動も確認できなかった。

4 考察

調査以外の時に St. 1 付近で個体が確認できたので、アブラコウモリは生息しているはずである。バットディテクターの感度、本種個体との距離など、調査方法に多くの問題点が残った。

5 今後の課題

バットディテクターの検出感度を確かめるために、超音波発信機を用いて、障害物や距離などの条件によって検出感度がどの程度低下するのかを確認し、調査ルートの検討を行う。

6 参考文献等

- ・コウモリの会 (2011) 『コウモリ識別ハンドブック』文一総合出版, pp36～pp37.
- ・森井隆三 (1993) 「香川県内のアブラコウモリ *Pipistrellus abramus* の水平分布」
- ・平井利明、木村俊介(2004) 「糞分析によるアブラコウモリ *Pipistrellus abramus* (翼手目 *Chiroptera*; ヒナコウモリ科 *VesPpertilionidae*) の餌構成」『日本生態学会誌 54 巻 3 号』pp159～pp163.